

平野 広行 議員

清流クラブ

南海トラフ巨大地震発生時における愛知県の被害予測に 対する本市の対策について

問

5月30日に愛知県防災会議地震部会が南海トラフ巨大地震発生時における県下の被害予測調査結果を発表した。

この被害予測調査結果によると、本市においては、家屋の全壊・焼失棟数は7千900棟、死亡者数1千200名という驚くべき数字が示された。55年前、本市に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風でさえ、市内で亡くなられた方は358名であった。それと比較すると3倍強の人的被害があることになり、とんでもない被害想定である。市民も大変不安

を抱いていると思うので、

県が発表した本市への被害想定に関連して、市民に正しく御理解いただけるよう、尋ねる。

(1) 市内の津波・高潮からの一時避難場所について学区ごとに、理論上だが、1人1㎡としてどれくらい避難スペースが確保できるか、昨年の9月議会で、この収容率について尋ねた。当時の回答は、白鳥学区77・4%、弥生学区46・7%、大藤学区94・1%の収容率で、この3つの学区が100%未満であった。あれから1年が経過した現在、学区別の津波・高潮からの一時避

難場所の状況について尋ねる。

(2) 白鳥学区は、新築される白鳥保育所の屋上、白鳥小学校の屋上への避難場所整備により、収容率は大幅に増え、100%まであと少しとなった。栄南学区は、駒野馬事会館と災害時の一時避難場所としての協定を結んだことにより、235%となり、本市において一番高い収容率となっている。桜・日の出学区、十四山地区は120%以上の収容率で問題ないが、弥生・大藤学区は改善がされていない。

今後の弥生・大藤学区への取り組みについて尋ねる。

(3) 津波避難計画の策定促進について、どのように進めていくのか。

(4) 今回の県の被害想定では、本市の浸水がかなり長期化すると予想される。

このようになった場合、市民の新たな避難場所または避難先についてはどのように考えているのか。

県が本市をモデルに策定する避難シミュレーションを参考にしたい

答 総務部長

(1) 白鳥学区90・7%、弥生学区46・8%、桜・日の出学区126・8%、大藤学区96・1%、栄南学区235・8%、十四山地区119・0%。

(2) 弥生・大藤学区の公共施設の屋上活用の取り組みについて、今年度、弥生小学校の調査・設計を行い、来年度工事を考えている。その後、大藤保育所を計画していきたい。

(3) 現在、本市をモデル地区として、南海トラフ巨大地震を想定した避難シミュレーション業務を県が実施しているため、その結果をもとに津波避難計画を検討していきたい。

(4) 海抜ゼロメートル地域において、一旦浸水被害が発生すると、長期化すると考えられる。そのため広域避難ができないか、またその場合、どのような課題があるのかを、木曽川下流部高潮・洪水災害広域避難検

討会や東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会において検討している。

近鉄弥富駅南口に タクシー乗り場を

問

近鉄弥富駅南口にはタクシー乗り場が無く、南へ向かうのに、わざわざ北口で降り、踏切を渡って南へ行くことになり、不便である。支障が無ければ、ぜひ南口にタクシー乗り場を設置すべきだと思うが、どうか。

事業者の意向を確認し、 関係者と協議したい

答 開発部長

現時点では計画はしていないが、北口には2つのタクシー事業者があるので、このような状況での各事業者の意向確認や隣接するパークレットパークを含め、南口での一般車、バス、タクシーパーズの配置について関係者と協議をしていきたい。